

総長インタビュー——立教大学総合発展計画の現状——

立教大学では「立教大学総合発展計画」のもと、着実に改革を進めております。今号では、英語教育や国際交流、奨学金制度などに触れながら、総合発展計画の現状について大橋英五総長にインタビューしました。

新年度を迎えましたね。今年の新入生の感想をお聞かせください。

社会は今、決して明るいとは言えませんが、学生たちに明るさが戻ってきた感じがしますね。新学部による新たな教育・研究が加わり、既存学部も新しい授業のやり方などを取り入れて頑張っているという意気込みが、何らかの形で学生に浸透しているのではないかと思います。また、留学生や立教セカンドステージ大学の受講生など、様々な環境の人が入学し新しい交流が生まれたことが、キャンパスに活気を与えているのではないのでしょうか。新入生にはぜひ、自分の意見を持ってどんどんいろいろな場で議論を交わしてほしいし、質問にも積極的にしてほしいですね。

力を入れて「国際化」について現在いかがですか。

立教大学では「学生に自立はさせるが孤立はさせない」といった考え方で対応していきます。



▲インタビューの様子

また、たくさんの留学生を受け入れ、色々な国の人々と交流をはかり学んでいこうとレベルアップを目指しています。現在、留学生は約5000名、毎年50〜60名ほど増えています。更なる拡大を目指したいです。

今、奨学金について校友会にも問い合わせが多いのですが。

総合発展計画の一環として、奨学金にも力を入れていきたいと思っています。多様な学生を大学に迎え入れるため、学生それぞれに対応した奨学金を新設したいと考えています。その他にも、留学生や、体育会を含め課外活動に力を入れていっている学生を対象とした奨学金などを準備しているところ



▲総長室でインタビューに応じる大橋総長

です。様々な環境にいる学生たちが学業や課外活動に思いきり打ち込めるよう、是非とも活用してほしいですね。国内外を問わず、立教大学に入学してこる優秀な人材に少しでも奨学金が役立つように立っていかなくてはならないことを願っています。

総合発展計画のこれからの展望は。

大学の教学改革や大学の在り方の工夫は、終わりがありませぬ。というのは、激動する社会のなかにある大学が、その社会で活躍する人材を育て、社会に必要とされる存在のある大学として発展していくためには、絶えず改革を進めていかなくてはならないから

す。立教大学はこれからどうなっていくのかを考え、将来像を描いて、常に新しい改革を進めていきたいと思っています。

学生に期待することは。

社会に出ていく前の学生時代に、いろいろな人と会って話をしてください。そして自分で勉強して考え、いろいろな人と議論して、その反論を聞いて自分の意見を再構成していくという力をつけてもらいたいです。社会のなかで自分は何ができるか、社会に何を発信できるか、というのを真剣に考え、それを謙虚に実行していくことが大切だと思います。

校友会へのメッセージをお願いします。

いつも温かな目で大学のことを考え支援していただき、大変感謝しております。



会報委員 町田香子(55法)

インタビュー感想
今年の新春インタビューから早、半年。また笑顔で総長室に迎え入れてくださいました。



▲総長の手による作品

思います。大学も校友会も、組織の在り方を常に改革していく必要があると思います。これからも、お互い意見を言い合い改革し合いながら一緒に活性化をはかっていきたいと思っています。

「周年の集い」日程決定!

今年S24、S34、S44、S54、H1、H11卒対象

校友会の恒例行事である10周年単位の「周年の集い」の日程等が決定しました。該当の方には、約1ヶ月前に、「案内状」を送付します。皆さまの同期の方で会報「セントポール」が届いていない方には、校友会事務局までご連絡を



▶第一食堂での懇親会

入れるようお願いいたします。会報が届いていない方には、案内状もお届けできません。住所登録は校友会HP、FAXでも受け付けております。

- 卒業30周年の集い
昭和54年卒対象
日時 11月28日(土)
15時受付
場所 センテナールホール(池袋中高)
- 卒業20周年の集い
平成元年卒対象
日時 11月14日(土)

昭和44年卒・卒業40周年の集いが開催されました

東京オリンピックが前年に終わり、外ではベトナム戦争が泥沼化していった昭和40年(1965年)に我々の大学生生活はスタートをきった。もはや戦後は終わりを告げた、と、時の首相が発言してからも数年が経過していた。真っ黒な学生服が目立っていたキャンパスに、男の子達のIVYルックが進出した。始めた時代でもあった。平凡パンチが前年に創刊され、VANが男の子たちのファッションを大きく



▲石崎孟氏(昭44経)による懇親会開会の辞

卒業してから早40年、大学生活の10倍の月日が過ぎ去っても、あのたった4年間の学生生活の記憶は、今も熱くそして鮮明だ。当時の学生すべてが、スポーツに、勉学に、恋愛に、友人達との熱き語らいに、1分の時間の無駄もなく時を過ごしていたように思う。

例年、卒業40周年の集いは、秋のホームカミングデーの後、寒い時期に開催されていたが、今年度は幹事一同の賛同を得て去る7月11日(土)に開催された。重いコートがないのが幸いしたのか、暑さが青春時代の海辺を思い出させたのか、315名の出席者は熱く語り、飲み唄った。その後の池袋駅近くでの2次会、3次会、いや4次会が燃え上がったのはもちろんのことだ。



▶受付の様子

我々の卒業時、全学の生徒数はジャスト1万名ほどだった。うち女性性は26%、たったの2600名だ。それが40年後の現在では全学生数1万8500名。当時の約倍だ。うち女性性が52%、なんと半分以上、1万人

弱が女性なのだ。まさに、まさに隔世の感ありだ。

(幹事代表 石崎孟)

ぜひご予約ください
15時受付
場所 第一食堂

※卒業40周年の集いは7月11日(土)に終了いたしました。

10月25日(日)ホームカミングデー
当日、池袋キャンパスにて開催される「周年の集い」

- 卒業60周年の集い (昭和24年卒)
- 卒業50周年の集い (昭和34年卒)
- 卒業40周年の集い (昭和44年卒)
- 卒業30周年の集い (平成11年卒)